

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

国民の立場から介護の充実、医療・福祉分野との連携を

介護をよくする東京の会総会・介護フォーラムを開催



基調報告する
基安達智さん

5月28日、
介護をよくする東京の会は、第3期総会とそれに続き

「2011介護フォーラム」を開催し64人が参加しました。27日に衆議院厚生労働委員会で、介護保険「改正」案が採決された直後でもあり、参加者は各シンポジストの発言に共感しながら「経済的な不安のない、必要とするすべての人に必要な介護が保障され制度の確立へ向けて現場・利用者の立場から運動を広げること」を確認しました。

師）は、「3・11以降『社会保障の自助と共助体制づくり』が加速化している。地域主権改革の名で規制緩和や『自助・共助』がすすめられている。介護保険見直しの理念と同じである」と報告し、「私たちの陣地を強固にして行くこと。地域からのたたかいを進めることが重要」と結びました。各シンポジストは、現場から介護保険「改正」案を検証し、報告しました。

と結びました。
NPO法人地域福祉サービス協会の大野専務は、自らの事業所の経営指標から試算した影響実態を示しながら「要支援者の55%からサービスが取り上げられ訪問介護事業の継続に重大な影響がでる。地域に根差して事業をすすめる非営利の小規模単機能事業所のスクラップ化である」と批判しました。

ルパーの待遇改善を」など怒りの声が出されました。
最後に、「高齢者・障害者の生きている姿、願いを実現する立場での運動を、地域主権・構造改革に反対する共同のたたかいを地域から広げよう」を確認し、介護保険「改正」案を参議院で廃案にしよう！と、参議院への緊急要請FAXを送ることを訴えて終わりました。（フアックス案と名簿は各社保協に送付）



石浜恭子さん



大野茂廣さん



竹森チヤ子さん

フオーラムの基調講演で安達智則氏（都留文科大学講

ホームヘルパー4人に3人が年収150万円未満の『どん底』は改善されない。処遇改善の継続と大幅引き上げを求めよう」

は「軽度者の切り捨ては許せない」「へ

社会保障としての国保制度の在り方から国保の現状、国の改悪の狙い、地域での闘いのポイントが読みやすい一冊にまとめであります。地域社保協、各団体での活用をお願いします。

東京日本大震災の被災者の方々に心よりお見舞いを申し上げます。東京社保協では、救済募金に取り組み、中央社保協を通じて被災地に届けます。



国保の現状から住民本位の国保運営まで

増刊！**国民健康保険の改善を**
好評・2万部を超える普及！
国保ハンドブックが好評です。6月・9月議会に向けた草の根の運動に向けて、少人数の学習会から使える学習ハンドブックです。

国保ハンドブックが好評です。6月・9月議会に向けた草の根の運動に向けて、少人数の学習会から使える学習ハンドブックです。



労働、年金、法律、健康など切実な相談に対応

社保協・労組・弁護士 共同で相談会

5月21日(土) 北区社保協、東京地評、東京国公、北区労連、東京北法律事務所が共同して「震災に負けるな!労働・生活・震災・行政何でも相談会」を実施しました。

相談会では、労働、登記、税務、年金、法律、生活保護、障害者(児)問題、教育、健康、耐震リフォームの10の相談コーナーを設け、3人の弁護士を含めて相談員を18人配置し行いました。

相談時間は14時から16時でしたが、炎天下のもと28人の相談者が訪れました。特に今日の経済情勢を反映して、生活に直接関わる失業や零細企業の経営の相談が目立ちました。

内容は、震災を

契機に仕事が減っている。緊急連絡先のアドレスを登録しよう会社と言われてきた。不安だ。解雇になったらどこに相談したら良いのか」「失業中。メッキ職人としての技術はある。でも働ける職場が見つからない」「路上生活をしている。生活保護を受けたい」「生活保護を受けている。低家賃で住める公営住宅がないか」「年金の加入期間が足りない。期間が足りないからといって一銭も年金がもらえないなんて納得できない」「会社から退職勧奨を受けている。もめたくない。もめて退職給付が削られるのが心配だ。夫は自己都合退職を迫られている」など切迫した相談が次々に寄せられました。また「借地だが明け渡しを地主に迫られている。期限が来たら明けわたさなきゃならないのか」「母が怪我で入院。3か月で出るように言われている」「父を亡くした。わずかな土地だが相続税が払えるか心配」「健康保険もないので病気が心配」等々、日常の生活不安からの相談もありました。

「今後もこうした相談会を実施してもらいたい」との要望が強く出され、引き続き実施したいと思います。

被災地からきた子どもとともに



5月26日、エデュカス東京において緊急学習会を105人の参加で開催しました。

学習会 学校を安全と安心の拠点

特別支援学校、校寄宿舎指導員の足立喜進さんは、Build東京スポー文化

を離れ不安をもって来た子どもたちも、縦のつながりができきたところだそうです。

館で避難してきた子どもたちの生活支援に当たっています。当初、親元

この学習会をスタートに学校を問い直していきます。(都教組・岸田久恵)

には何気ない言葉も傷つける場合があること、差異は文化や背景にもあって、特に言葉の違いは大きいことを、事例を交えながら語ってくれました。

また、被災者でなくとも、心の揺れやすい人はダメージを受けているので、いじめや不登校、発達課題のある子ども等への息の長いケアが必要だということがわかりました。自立の力を失わせない支援、学校だからできることをやっていきたいと強く思いました。

シンポジウム

社会保障基本法・憲章の提起を通じて
3.11後の日本で
福祉国家を展望する

【報告者】井上英夫さん(金沢大学教授)
後藤道夫さん(都留文科大学教授)
渡辺治さん(一橋大学名誉教授)

2011年7月10日(日) 13:15~16:30
明治大学リバティーホール 参加費・1,000円

主催・福祉国家と基本法研究会、福祉国家構想研究会

復興へ長い道のり、息の長い支援を

東京自治労連 田川英信

26日J R一ノ関駅から、自治労連の青年集中ゾーンに参加した若者にまじって現地入りしました。朝晩は10℃を切る現地です。持参した寝袋だけで眠りについたものの、少し寒さを感じました。

少しずつ少しずつ片付けや復旧が進んでいます。電波塔が倒れ、使用できなかったソフトバンクも復旧、auも電波状態良好です。

朝7時に全体で打ち合わせ。東京からは、足立・墨田・品川区職労、東水労、介護労、首都圏青年ユニオンなどが参加。本日の作業は、①線路そばの瓦礫の整理、②個人宅の床下清掃・整理解・瓦礫撤去等、③ボランティアセンターのスタッフ、④陸前高田市の広報の印刷・配布、などを全国からの72人のボランティアで手分けして行いま



した。青年22人は線路そばで肉体労働です。

海水の入り込んだ田畑は塩抜きが必要。昨夜「塩害対策・タネっこをまくべえあ」作戦会議が、地元の消防会館で開かれました。とうもろこし、ひまわりは塩分を吸収して生長するので、塩抜きのために植えようというプロジェクトです。

6月4日・5日に種を泥団子にくるんで、イベントとして大々的に蒔こうと計画しています。プロジェクトの中心となっている区長（町会長のような立場）の村上富夫さんの名刺には、

津波にも負けずにただ一本残った松の木をデザインして「がんばっぺし」と書かれています。少しづつ少しずつ復興に進んでいます。でも、まだ長い道のりです。「タネっこをまくべえあ」プロジェクトにも3年以上先を見据えての試みです。長い道のりが少しでも短く、楽になるように、側面からお手伝いしたいものです。

福祉事務所窓口対応の改善要求など 都生連が対都交渉

5480人分の要請書も提出

都生連は5月30日、「対都交渉」を行い、232人の会員が参加しました。

午前中は東京都都市整備局の係長が、午後は都福祉保健局の係長が勢ぞろいしました。まず事前に提出した「都生連の重点要求」への都による回答の



後、参加者から切実な実態が次々と出されました。都市整備局に対しては「なぜ5月分の都営住宅の募集を見合わせたのか」「都住ポイント方式募集の様式は簡潔に必要なものだけに」「エレベーターがなく、足の悪い居住者は外出できず孤立している」「空き室がたくさんあるのに募集がされていない」「水道の蛇口をレバー式にして欲しい」などの切実なものが出され、現地調査を約束させたものもありました。福祉保健局へは「ある福祉事務所では土曜休日などで医療券を取りに行くことが出来ずに医者にかかったのに『無断で医者にかかったのはダメ』とおこられた」「若者の生保受給者を無料宿泊所に数ヶ月から一年以上も留め置くのは止めるべきだ。精神的におか

学習集会 今こそ 社会保障の拡充を

社保庁解体から1年 不当解雇撤回を早期に！

2011年7月16日(土) 13:30~16:30
ラパスホール

特別講演 公文 昭夫さん
(年金実務センター代表
葛飾社保協会長)



主催・安心年金つくり東京連絡会・東京社保協・東京地評・年金者組合都本部・東京国公

